畦畔の帰化アサガオ類対応マニュアル

2023年4月 福井県農業試験場・農林総合事務所

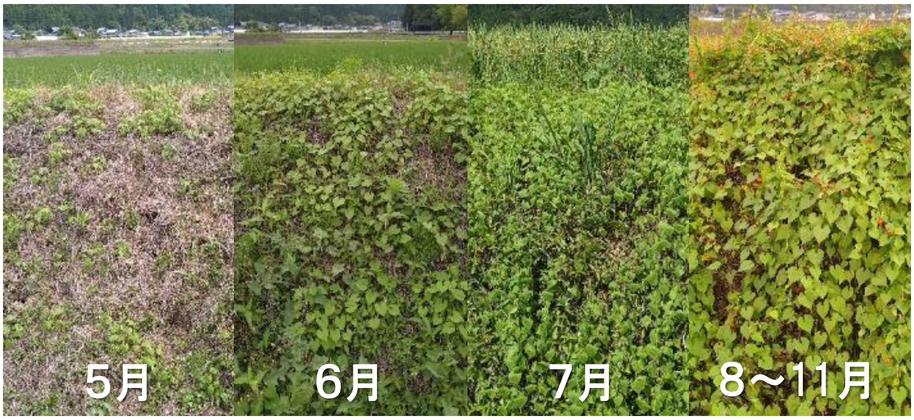
ダイズやソバ圃場への被害を防ぐため
畦畔での発生をなくすことが重要です

～ ポイント ～

①花が咲くまでに除草が基本！

②それでも花が咲いたらすぐ除草！

出芽から開花の時期（マルバルコウ・無除草の場合）



出芽始め　一部開花　8月から本格的に開花・結実

除草剤散布後も発生

土中の種子からだらだらと発生

開花後 約2週間経過すると 刈り取っても種子ができる

マルバルコウ

開花の5日後に刈取り 一定期間放置　同じく 15日後　同じく 30日後

刈取直後

一定期間放置後

結実しない　結実する

花に気づいたときにはすでに種子ができていることが多い

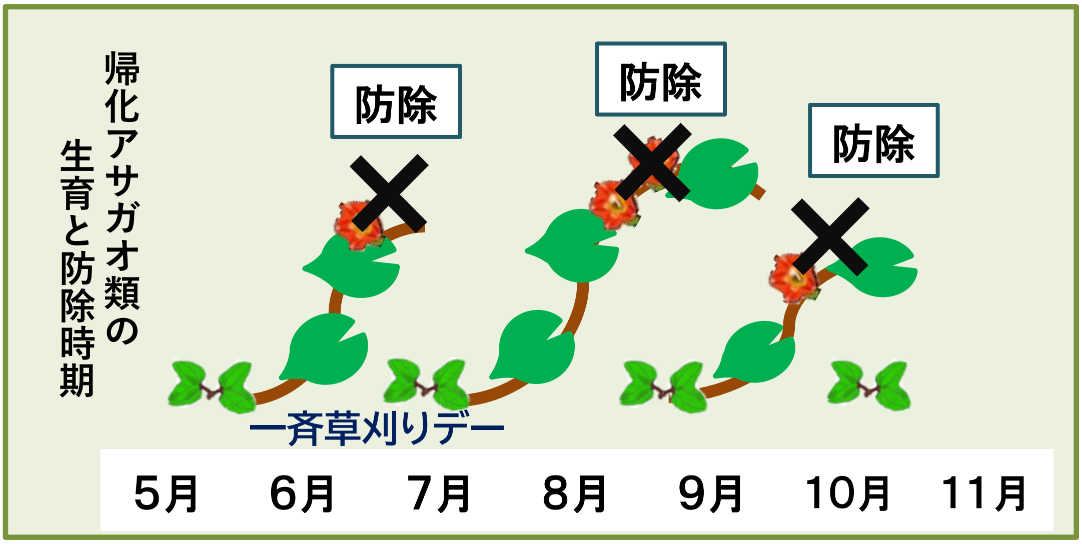
年に3～4回は必ず防除

防除時期の目安

- ・1回目　6月下旬から7月上旬
- ・2回目　8月上旬から中旬
- ・3回目　9月下旬

ただし、
花を見たらすぐ防除

除草剤散布時はラベルの登録内容を遵守



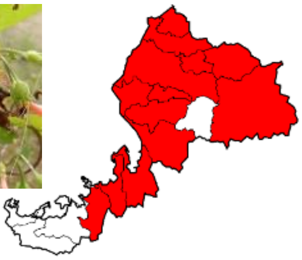
＊ 福井県立大学 生物資源学部 植物資源学研究領域 鈴木雄登 氏から図の提供を受け、
農研機構「帰化アサガオ類まん延防止技術マニュアル」を参考に作成

帰化アサガオ類の発生状況

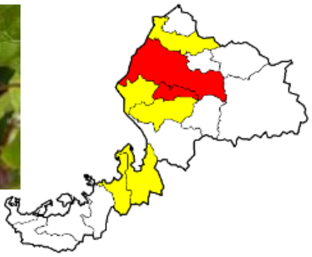
赤 ：多い　黄色 ：少ない

マルバルコウとマメアサガオが多い

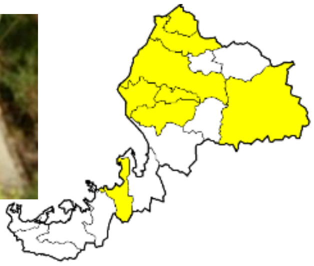
マルバルコウ



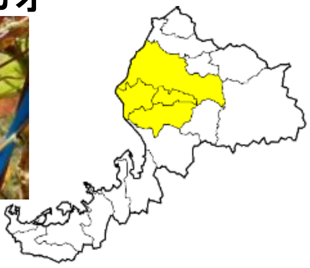
マメアサガオ



ホシアサガオ



マルバアメリカアサガオ
アメリカアサガオ



＊ 2018～2022年の福井県立大学、信州大学との共同研究での分布調査にもとづく
未発生地域でもすでに生息している可能性あり

マルバルコウ 徹底防除の例

刈払い１回 ＋ 除草剤３回 で結実させない

除草体系

6月

①６/３０　刈払い

斑点米カメムシ対策の
県内一斉草刈りデーに実施

7月

②７/２１　除草剤１回目

グルホシネート剤

８月

③８/１２　除草剤２回目

グルホシネート剤

ＤＣＭＵ水和剤

９月

④９/２９　除草剤３回目

グリホサート剤

完全枯死

再生･出芽 なし （10/28）

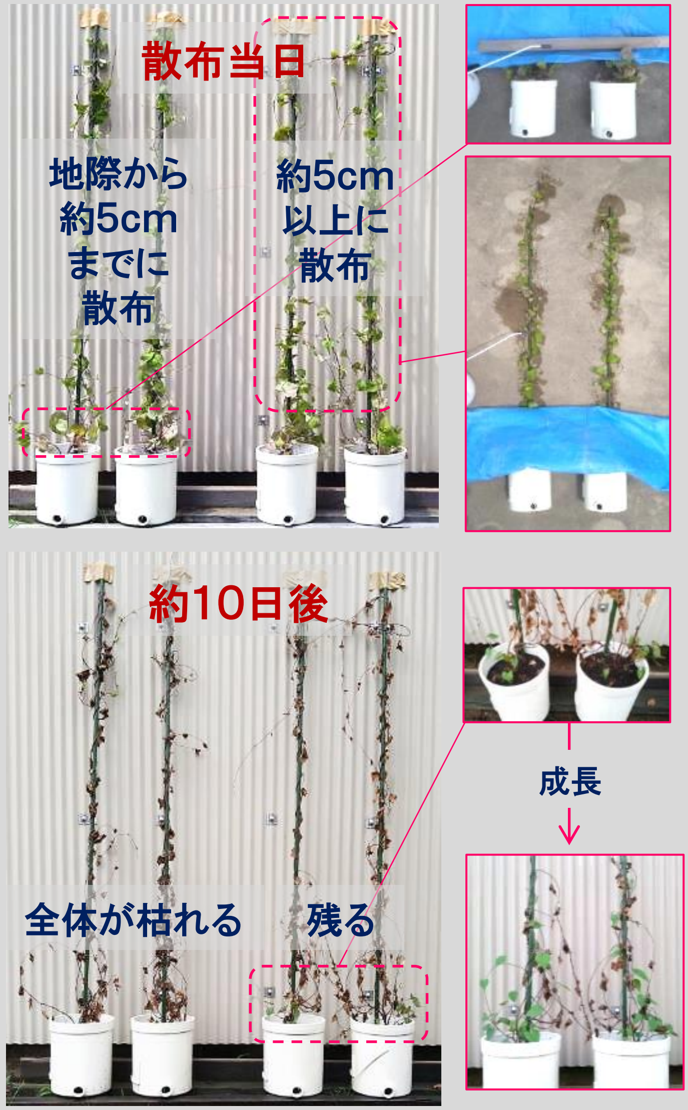
＊参考

刈払い２回（６/30、８/12）では
10月下旬に開花・結実

畦畔の土壌流亡が顕著な土地では、選択性除草剤の使用や刈払いのみでの防除も検討する

除草剤散布と刈払いの注意点

除草剤の散布位置と効果



＊使用した除草剤
グルホシネートP
ナトリウム塩液剤

刈払い後の再生

除草剤

地際に散布しないと
全体が枯れない！

刈払い

再生しやすい！
可能な限り地際で刈取る！

種子の後熟防止のため
刈取った株を放置しない

福井地区の除草事例

マメアサガオ

除草剤4回散布で完全防除

使用した除草剤

除草剤名	１０ａあたり 使用量	１０ａあたり 希釈水量
①グリホサートカリウム塩液剤	５００ml	１００ℓ
②グルホシネートＰナトリウム塩液剤	５００ml	１００ℓ
③ＤＣＭＵ水和剤	２５０ml	１００ℓ

マメアサガオの生育と除草剤の処理

最初の出芽は
４月下旬～５月上旬

開花時期①（６月中旬）
一部の株はこの時期に開花

開花時期②（８月下旬～１０月上旬）
生育が進んだ株は順次開花

5月　6月　7月　8月　9月　10月

開花！

７月～９月
除草剤散布後20日程度で新しく出芽
（この間、花は付かなかった）

１０月に入ると
開花株を確認

5/10　6/17　7/28　8/31　10/6　10/18

除草剤①　②、③　②　①

種子の
結実なし！

- **約1か月に1回の除草剤散布**（６～10月、４回）**で種子の結実を抑制する**
- **除草剤を散布後２～３週間で新しい株が出芽するため、月に1回程度は除草する**
- **開花時期である<u>６月中旬</u>、<u>８月中旬の処理が重要</u>**

奥越地区の除草事例
マルバルコウ

「刈払い」と「除草剤散布」を組み合わせて結実を防止

６月中旬　マルバルコウが開花始め

６月下旬　**刈払い**
（水稲の斑点米カメムシの対策と一緒に）

↓

マルバルコウ、一般雑草　再生

↓

７月上旬　**刈払い**
（水稲の斑点米カメムシ対策と一緒に）

↓

マルバルコウ、一般雑草　再生

↓

８月上～中旬　**除草剤散布**

- グルホシネートＰ
  ナトリウム塩液剤（茎葉処理剤）
  薬量500mℓ/10a
- ＤＣＭＵ顆粒水和剤（土壌処理剤）
  薬量300g/10a
- ＊希釈水量100ℓ/10a、展着剤使用

↓

９月中旬　**刈払い**（一般雑草も含めできるだけ地際から）

↓

マルバルコウ、一般雑草　再生

↓

10～11月（刈払い）［帰化アサガオ類が開花している場合］

留意点

除草剤：薬液が十分に雑草や土壌面までにかかるよう散布
　　　　雑草の草丈が３０cm以内に散布

刈払い：ナイロンカッターなどでできるだけ地際で刈取り

＊９月中旬に刈払いしたマルバルコウが約３０日で再生し、
　１０～２０日後に一部が開花したが、結実せずに１２月に全て枯死

坂井地区の除草事例

マルバルコウ

7月の刈払い + 開花前の除草剤散布で種子の結実を防ぐ

月・旬		無処理	除草剤処理
6	上・中・下	6月上旬頃から マルバルコウ発芽	除草剤①②の併用 と ③ をそれぞれ8/19 に散布 ①グルホシネートPナトリウム塩液剤 ②DCMU水和剤 ③グリホサートカリウム塩液剤

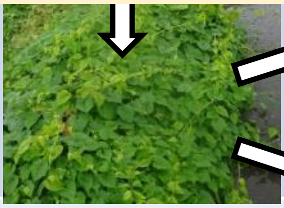
7/1 刈払い

7/9 草刈後発芽

除草剤なし

8/26 開花

8/19開花前に除草剤散布



除草剤①、②を散布
8/22 に枯死

除草剤③を散布
9/3に枯死

9/6除草剤散布後発芽

10/上旬種子成熟

10/上旬開花

必要に応じて追加防除

本資料は、福井県立大学 生物資源学部 創造農学科 水口亜樹 准教授の助言を受けて、福井県農業試験場・農林総合事務所が作成しました。